

監修者まえがき

大平総理が他界されてから、すでに十四年の歳月が流れ去ろうとしている。「光陰は逝水の如し」というが、それにしても冷戦末期から冷戦以後にかけての世界の流れはあまりにも速く、あまりにも激しい。もしも、大平総理がまだご健在であられたならば、この時代の変化をどう読まれるであろうか、日本政治はどのような舵取りをすべきであると考えられるであろうか。多磨墓地の墓碑銘のまえに佇んで、静かにいまは亡き総理の声に耳を傾け、お話をしてみたい昨今である。

大平内閣は、昭和五十三（一九七八）年十二月七日から昭和五十五（一九八〇）年六月十二日までの僅か一年七カ月間の短命内閣であった。にもかかわらず、この内閣が残した未来への政治的遺産は、その後の歴代内閣によって大切に継承されて今日にまでその影響を与えている。その影響力の大きさは、政治家大平正芳の深い見識とゆたかな人徳に負うところが極めて大きい。

大平総理の伝記はまず最初に、『伝記編』『追想編』『資料編』からなる『大平正芳回想録』全三巻（大平正芳回想録刊行会）のなかの一巻として、昭和五十七（一九八二）年六月十二日の三回忌に刊行された。その後、同伝記編の英文版の作成作業が進められ、E・Oライシャワー教授に長文の序文をいただいで、平成二（一九九〇）年に『Postwar

Politician: The Life of Former Prime Minister MASAYOSHI OHIRA”と題して Kodansha Internationalから出版された。この英文版のために新たに書き下ろされた草稿は、同時に邦文で『大平正芳 人と思想』と題して、大平正芳記念財団から刊行された。また同書の中国語版は、翌平成三（一九九一）年に、中日友好協会ならびに中日関係史研究会の編訳により出版された。

本書は、こうした刊行事業の成果を基礎に、大平正芳の思想と行動、業績と遺産をより学術的、専門的に分析、研究することをめざしたものである。第一部は大平正芳の政治哲学と時代認識、外交政策と経済政策、政治姿勢と行政手法などに関する学術的、専門的研究論文六編から構成されており、第二部は外交・内政、経済・財政、思想・人物などの各分野に関する三十四編の評論、エッセイなどから成っている。これらの第一部、第二部を構成している諸論文、評論、エッセイなどを通じて、政治家大平正芳の業績と遺産がより明確に再評価、再認識、再検討されることをわれわれは念願している。

われわれ三人は大平内閣時代に、総理の御指示に従って、内閣直属の総理大臣諮問機関として設置された九つの政策研究グループ 田園都市構想研究グループ（議長・梅棹忠夫国立民族学博物館長）、 対外経済政策研究グループ（議長・内田忠夫東京大学教授）、 多元化社会の生活関心研究グループ（議長・林知己夫統計数理研究所長）、 環太平洋連帯研究グループ（議長・大来佐武郎日本経済研究センター会長）、 家庭基盤充実研究グループ（議長・伊藤善市東京女子大学教授）、 総合安全保障研究グループ（議長・猪

木正道平和・安全保障研究所理事長）、文化の時代研究グループ（議長・山本七平山本書店主）、文化の時代の経済運営研究グループ（議長・館龍一郎東京大学教授）、科学技術の史的展開研究グループ（議長・佐々学国立公害研究所長）の幹事役を分担して、総理秘書官、内閣補佐官、各研究グループ・メンバーの各界の方々のご協力を得ながら、各研究グループの企画・調整・報告書取りまとめの作業に当たってきた。そうした縁から、『大平正芳回想録』全三巻の刊行事業のお手伝いをさせていただくことになり、そのなかの『伝記編』の監修者を共同して務めることとなった。それ以来、英語版、中国語版、ならびにその日本語版にあたる『大平正芳 人と思想』など一連の伝記監修にもたずさわってきた関係で、今回、その姉妹編ともいふべき『大平正芳 政治的遺産』の監修の仕事もお引受することとなった。

本書の表題を、『大平正芳 政治的遺産』としたのは、政治家大平正芳が残した数々の未来への政治的遺産ともいふべきもの。九つの政策研究グループの報告書もその一部であると考え、をいま一度しっかりと再認識、再検討してみることが、冷戦以後の国際秩序の再編成期、一九五五年体制といわれてきた戦後日本の政治体制崩壊後の国内政治の激動期に不可欠の知的作業であると考えたからにはほかならない。

もしも、大平総理ご健在なりせば、自ら筆をとって序文を書きたい、あるいは各論文や評論等に存分に朱を入れたい、むしろご自身で長文の論文を書きたいと言われたに違いないと思ひながら、われわれはこの「監修者まえがき」を書き綴っている。

また、大平総理が逝去されて以来の十有余年の歳月の経過する間に、大平志げ子夫人、英語版に絶筆となった長文の序文を執筆していただいたE・O・ライシャワー先生ならびに大来佐武郎先生、山本七平先生、内田志夫先生はじめとする政策研究会メンバーの方々を含めて、多くの方々が鬼籍に入られることとなった。ともすると大平総理は、地上に残された連中だけにはまかせておけないと、あの世でこれらの親しい方々を集めて、新しい政策研究の勉強会をまた再開しておられるかも知れないという気さえするのである。

最後に、本書のためにご多忙のなかを論文、評論、エッセイなどを快くご執筆いただいた執筆者各位に、また本書の編集、出版のための沢山の事務作業を裏方として根気よく支えて下さった大平正芳記念財団の各位に衷心より厚く御礼申し上げます。

大平総理の十五回目のご命日に際し、あらためて総理ならびに志げ子夫人のご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げるとともに、あわせて総理とゆかりの深かった多くの他界された諸先生のご冥福を祈って、本書を慎んで総理のご霊前に捧げたいと思つた。

平成六年四月

公文俊平
香山健一
佐藤誠三郎